

会 議 録

会議名称	平成 28 年度 第 2 回柳川市総合計画審議会
日 時	平成 28 年 8 月 29 日 (月) 午後 2 時～午後 4 時 20 分
会 場	柳川市民会館 第 1 会議室
出席者	<p>【委 員】 グループふるさと・しごと 山下会長（司会）、新谷委員、富安委員（代理出席）、富田委員、松延委員、作本委員、待鳥委員、平川委員 グループひと・まち 片山委員（司会）、川津委員、太田（達）委員、瀬戸口委員、益田委員、伴委員、上田委員、長嶋委員、中村委員 （17名）</p> <p>【事 務 局】成松副市長、高崎総務部長、栴島企画課長、古賀企画課長補佐、野口企画課総合戦略推進係長、企画課総合戦略推進係松藤、宮部</p> <p>【関係部長】石橋市民部長、原保健福祉部長、大淵建設部長、成清産業経済部長、樽見教育部長、橋本消防長（代理出席）</p>
欠 席 者	清澄副会長、馬見塚委員、太田（豪）委員、生田委員、松尾委員
次 第	1 開 会 2 議 題 （1）第 2 次総合計画の構成について （2）次回開催日について （3）その他 3 閉 会
会議資料	<p>■事前配布 柳川市総合計画審議会グループ表 第 2 次総合計画の構成について 第 2 次総合計画体系図案</p> <p>■当日配布 F F G 調査月報 8 月号</p>

1 開 会

高崎部長が進行

・松延委員より、配布資料F F G調査月報の説明。

ふくおかフィナンシャルグループが毎月発行している月報。8月発刊号 36p～45pに柳川市の紹介をしている。

2 議 題

会長あいさつ)

皆さんこんにちは、山下でございます。我が国は少子高齢化で確実に人口は減少、しかも超高齢社会に向かっているということなんですが、そのような中でもいかにして柳川の人口減少のスピードを緩めるのか、ストップさせるのか。その為には柳川が、私達にとって暮らしやすい、そして子育てしやすい、そのような町にしていく必要があるのかなと考えております。

本日は柳川市の市役所が考える現況と課題というものを提示していただいて、今日お集まりの専門家の方々、及び市民の方々から、「ちょっと認識が違っているんじゃないか。」「私達と向かっている方向が違うんじゃないか。」そういうのを、自由に議論していただくというのが、今日の目的でございます。ふるさと・しごとづくり班、そしてひと・まちづくり班と2つのグループに分かれまして、それぞれの現状と課題というものを見ていきたいと考えております。

(1) 第2次総合計画の構成について

事務局より全体の説明

その後、各グループにおいて、項目毎に事務局より概要説明を行い、協議。

(○は委員発言、●は関係部長発言)

柳川市の歴史・文化・風土に誇りと愛着を持つふるさとづくり

(1) 地域資源に対する誇りとこだわりの醸成

- コミュニティセンターの対象は、年配だけではなく幅広い方が来ているのか。
- 年配の方の利用が多いが、子ども会行事等もあるので、若年層の利用もある。
- コミュニティセンターを使ったことが無い。年配世代が行っているのは知っているが、何をしているかわからない。
- 文化サークルを盛んにやっているところもあるが、地域で温度差はある。
- 学校で年配の方が子ども達に昔の事を教えるという行事があるが、そういったものを地域（コミュニティセンター）でもすべきではないのか。
- 行事に対する情報が少なく、活躍したくてもできない、わからない人がいるのでは。
- 若年層には、世代間で交流を持ちたくない人もいる。

(2) 郷土愛とおもてなしの心の醸成

- 現在のインバウンドに対する施策は。
- 4ヶ国語のパンフレット作成。Wi-Fi スポットの整備。やさしい日本語ツーリズム（台湾のお客様をターゲットに、行政用語や難解用語等を台湾で学んでいるような簡単な言葉に変えた日本語で接するように推進する事業）等。
- 観光協会では、週末だけ外国語対応できる人を配置しようかと考えている。また、市より外国語対応のタブレットを提供してもらい、利用している。
- 昨年度、外国人向けの指差しマップを作成した。ボランティアガイドは何人か英語が話せる方がいて、研修もしてもらっている。
- 英語で簡単に案内できる市民をもっと増やせばよい。
- そのためには柳川市民がもっと郷土に愛着を持つ事が必要。
- 市で観光PRのプロモーションビデオ等は作っているのか。
- 昨年度、さげもんガールズによるプロモーション映像を作成した。
- 評判はよかった。参加した方も楽しかったと言っていた。

- スポーツ、レクリエーション施設は、一度大きいものをつくったらその後の管理はなかなか難しい。

- 「文化交流と郷土学習の推進」とあるが、郷土学習に関する記述が何もないような気がするのだが。
- 別項目（資料6ページ）で記載がある。まだ項目の仕分けがうまくいっていない。

(3) 文化芸術に触れる機会の創造

- 水郷は地域が誇れるもの。地域が誇れるものは文化になる。重要な取組だと思う。
- 柳河、城内など市街地にとっては水郷は身近なものかもしれないが、旧大和町から見ると、掘割との関わりがなく、正直どういった取り組みをやっているのかわからない。旧大和町や旧三橋町の住民にも水郷に対する醸成を図る取り組みが必要では。
- 小学校では、川下りや水に対する学習を行ない、共通意識を持たせている。
- 川下りコースに関わらず、家の周りのクリークは、農業や生活に直結している。また、地域の堀さらい等の行事もある。
- 水郷に対する市の認識と、若者の認識にギャップがあるようだ。

- 文化協会は年配の方しかいないようなイメージ。若者を取り込む取り組みは行なっているか。
- 文化サークルや団体の一覧をまとめた冊子はある。

- 若者が入らないと発展は難しい。もっと市が介入してもいいのでは。
- 郷土の文人の PR をもっとやってほしい。学校で話す機会があるのだが、意識が薄れてきているような気がする。
- 小中学生には、郷土の偉人を紹介した「やながわ偉人伝」を渡して、それを使った授業をしてもらっている。

(4) 人権が尊重される社会の形成

- 障害者に関する記述がない。
- 福祉の項目で記載している。
- ユニバーサルデザインの推進で、誰もが住みよいまちにすることが大切。

若い世代の希望を叶え、柳川の子育て、暮らしに幸せを感じるひとづくり

(5) 遊んで学べる子育て支援

- 校区の統廃合に関する進捗状況は。
- 平成 23 年に見直しの協議をした結果、統廃合には至らなかった。平成 33 年度には改めて見直しをしていく方針。
- 待機児童や隠れ待機児童の数字は。
- 待機児童はゼロ。
- 保育園で定員に満たない園があるということか。
- どこかの園に入れる状況だが、仮に定員に満たっている園にどうしてもと希望される場合は、自主待機という形になっている。
- 保育料は。
- 大木町や大川市より高いという方はいらっしゃる。柳川市は、大木町や大川市と比べて子どもの数が多いため、どうしても市の持ち出しがかなり大きくなっていく中で下げるということをしている。大川市並に下げると、他の事業ができなくなってしまう。
- 延長保育、時間外の利用状況は。
- 今は利用者が増えている。通常は 18 時または 18 時 30 分までだが、19 時まで全園延長し、保育をやっている。19 時以降を望まれている方も、何人かいるが、現状はやっていない。
- 幼稚園は定員割れとのことだが、こども園へ移行しているのか。
- 認定こども園は現在 2 園あり、他にも昨年時点でいくつか検討されているところはある。移行するかどうかは運営者の判断となる。
- 青少年育成市民会議は、具体的に何をやっているのか。
- 地域の中で、子供達の登下校の見守り。他にも、校区毎に事業は異なるが、例

えば昭代地区では弁論大会などを催している。
校区民会議の上位に市民会議がある。意見発表は年1回行っている。

- 通学合宿とは。
- コミセン等を利用して、子ども達が宿泊して、そこから学校へ通う。期間は地域により異なるが、そのお世話を地域でやっている。
- 特別支援学級について、適応指導教室等は。
- 雲龍の館に設置し、受け入れを行っている。
- 多様な仕組みでサポートをしていることを書き込んでほしい。

(6) 結婚・出産応援

- 婚姻数についての自己評価は。
- 結婚サポートセンターの登録数は伸びている。出会いを求め、結婚したいという願望は一定数ある。
成婚が昨年は10組。ここ数年の成婚は数組だったので、一定の成果はあったものと考えている。
- 「出会い結婚につながるサービス」とは。
- 結婚サポートセンターで出会いの場の提供を行なっている。婚活セミナー等を実施していくことも必要ではないかと思っている。
- 登録されている人は、積極的に活動しているか。
- 登録者は、希望しているものの少し意欲が弱い。結婚したいけれども、機会があればやってみようかなという程度の人が多いような感じがする。その人達をどう結婚に結びつけていくかが課題。
- 西鉄と小郡市観光協会がタイアップして、電車の中でお見合いを実施して、3分の1がカップルとなった。ちがう空間でイベントをやるのも一つの手段。
- イベント前に講座をした方が、成功率が上がるかもしれない。女性も話しかけてほしいが、男性はどう話しかけたらいいか分からないという人も多い。そういった講座をしてからイベントをするといいかもしれない。

- はじめて出産を迎える親に対するサポート体制については、いろんなサロン等があるので、もっとアピールしてほしい。
- 子育て支援センターや、子育てハンドブックを作成したので、その旨もあわせて記載していきたい。

(7) 手ごろな住まい応援

- 通勤アクセス改善の施策とは。
- 福岡市への電車通勤時間が、日中は46分だが、朝は67分かかる。そういったアクセス面の改善があれば、市に定住して通勤する人も増えるのではと思っている。

- それもあるが、駅までアクセスしやすくする施策として、駐車場とか、パークアンドライド機能を持った駅前広場とかはどうか。
- 駐車が足りないという声は、ほとんど上がっていない。
また、駅へのバスの増便を望む声も聞かない。逆に駅からの増便の方が要望がある。
- 電車のダイヤは、筑紫車庫から向かう電車と、大牟田方面から向かう電車が全て天神方面に向かう。天神地区で朝は特に容量が一杯になっていて、現在のダイヤになっている。
- 市営住宅の増築は。
- 計画に沿って、老朽化したものは改修しているが、新築は計画にない。
- 駅前に市営住宅は。
- 駅前はホテルやマンションが進出しており、民間を圧迫することが無いようにしていくことが必要。
- 空き家は田舎に多いのか。
- 約 1,000 軒のうち、120 件は便利のいい所にある。
新築した場合に、補助制度等があれば、といった声を聞いたことがあるか皆さんに伺いたい。
- 近所の方が、中古住宅を買った時に、補助があれば。とのことだったが、当時はなかった。

(8) 就業や女性の再就職応援

- 育休取得後、必ず元の会社に戻れているのか。
- 私が勤めていたところは、パートの方も育休をとっていた。しかし、市内の他の企業も同様かは分からない。
- 高校生の就職求人票の中で重視しているのは、育休、ボーナス、福利厚生など。
県内より県外の企業が充実している。
- 女子学生は、地元から通いたいという希望が多い。
- 市内の求人では女性が多かったりするのか。
- 男女雇用機会均等法があるので、男性をとりたいたいと思っても求人票に「男性希望」とかは書けない。
- 雇用者と企業とのマッチングは行なっているのか。
- 商工会議所で年 1 回マッチングを行なっている。
- 福岡の企業に通勤していて、家と企業の往復で疲れてしまい、休日は出かけていないという声を聞く。結婚に結びついていない要因のひとつではないか。

- 企業見学会（オープンファクトリー）等、色々と施策はされていると思う。
- 行政だけでできる問題ではないので、商工会議所等の事業も含めて書き込めばよいのではないか。

水郷柳川の風情や快適さに共感し人を惹きつけるまちづくり

(9) 「住みたい柳川」転入者支援

- 定住した際の固定資産税の減免は。
 - 3年間の新築住宅軽減措置がある。2年延長している市町村もあるが、税収入の減となるため、慎重に判断する必要があると考える。
- 総合戦略のKPIが移住に関する相談件数になっていたが、相談窓口に関する記述が無い。
 - 定住サポートセンターがあり、相談を受け付けている。
- 定住サポートセンターの記述を書き込んだら、総合戦略とも整合性がとれる。
- 定住サポートセンターの情報発信、PRは。
 - 平成22年にできて、平成24年から新婚世帯への家賃補助や、マイホーム取得支援、空き家改修等の支援事業等をやってきた。
- 定住サポートセンターからの情報発信、PRを望む声は多いと思う。

(10) 水郷情緒が楽しめるこだわりの空間づくり

- 「児童公園や水辺公園などを求める市民の声が高まっています。」ということは、高まっているだけで特に何もないということか。計画的公園整備は。
 - 市へ要望書をいただいているので、関係課で検討しているところ。子育て団体のアンケートによると、多く望むのは「遊具の充実した公園」だった。
 - 保護者のニーズでは、遊具がある、水と触れ合えるとかが多い。危険からセパレートされていて、トイレがきれい等で等。既存の公園でもニーズの一部は満たしているが、全てを満たすものはない。
 - プレイパーク、遊具だけでなく、インストラクターがいて、子ども達に考えて遊ばせるようなものは。
 - 年に1回、ふれあいわんぱーくというのを民間団体がやっている。
 - 都会だとそういったプレイパークがある。せっかく水が近いので、そういったものに触れ合えるプレイパークとかがあるといいのでは。
- 景観条例の記載がない。書き込んだほうがいいのでは。

(11) 誇りとこだわりのある柳川暮らしの情報発信

- (9)と記述内容が同じであるため、議論を省略し、次へ進む。

(12) 掘割を活かしたこだわりのライフイベントの実施による市民満足度の向上

- 節句や結婚式での川下りの利用は、現在どれくらいあって、どれくらいまでしたいのか。
- 今は把握していないので、記載していきたい。
- 総合戦略のKPIは「海外からの花嫁舟の利用件数」となっている。ハードルが高いのではないか。
- 東南アジアでは、日本的な節句、結婚式の川下りのニーズが高かった。
- 雛祭りの川下りですれ違う時も、海外の方は喜ばれていた。
- 例が節句と結婚式だが、もう少しアイデア、例を提示してもらった方が、より利用もあがるのではないか。

(13) 魅力ある新たな市街地の形成

- 柳川駅東西の整備はできているので、柳川駅以外の駅へのアクセスの向上も重要な課題と思っているので、事業者として協力してやっていきたい。
- 空き家が増えているので、それを考えていく必要がある。立地（駅近、スーパー、コンビニ、学校）がいいところへのニーズが高く、中古の空き家のニーズが少ない。新築がメインとなっている。
- 商店街がシャッター通りになっている。
- 城南町のセブンイレブンは、わざわざ看板を白黒にしていたが、あまり意味がなかったのではないか。

- 名勝指定によるメリットと義務は。
- 地震による補修の補助率が上がる。護岸・掘割の工事は申請が必要。

(14) 健康寿命の延伸とだれもが安心して暮らせる福祉体制の充実

- 福岡市で行われている高齢者乗車券事業等の、柳川市での検討は。
- 福祉タクシーはあるが、年齢で〇歳以上というようには設定していない。福岡市ほど公共交通機関が発達していない中で、交通弱者の足をどう確保していくのかは今後の課題。
- 市の医療費の水準は。
- 一人当たりの医療費は県平均より高い。75歳以上の高齢者はそれほど高くないが、国民健康保険が高い。
- 医療費の抑制と高齢者の健康維持の連携は。
- コミュニティセンターで高齢者の介護予防をやっている。
医療費は、医療環境の充実と新薬の開発により、高くなっている。

- 子ども食堂は。
- ない。子どもの貧困といいつつも、子育て世帯の貧困が問題。自分の将来を経

済的理由で制限されないようにしていくことが大事。

- 優遇措置が整った奨学金制度ができていますので、就職より進学が増えてきている。経済的理由で学校を辞めるというのはあまりない。

(15) 広域連携によるまちづくり

- 筑後田園都市評議会を入れていただきたい。
- 具体的に連携された観光ルートはどこを見ればわかるのか。
- 「ちくご観光案内所」のホームページに、ルートと各市町のイベントが掲載されている。

(16) 快適な暮らしが出来る生活基盤の整備

- 公共交通機関への理解、促進の視点も入れた方がよいのでは。子ども達の中にはマイカーの中で育っているのも、電車、バスに乗ったことが無い、切符の買い方も知らないという子もいる。気軽に公共交通機関に触れる機会が必要ではないか。

- 水道水はきれいなのか。

- うきはのダムからの配水なので、水はきれいで取水権も充分。
料金の値上げも何十年とやっていないので、上水道は健全経営と言える。

- 焼却施設の完成はいつか。

- 平成 32 年の予定。

- 今の分別のままでいくのか。

- 今までどおりの予定。ただし、不燃物については、リサイクルセンターでの取り組みにご協力をお願いしていくかもしれない。

- リサイクルについて、もう少し周知を図ってほしい。

(17) 安全、安心のまちづくり

- 日頃からの備えが大切だと思うが、日頃の訓練は。

警察や金融機関と連携しての訓練は行なっているか。

- 警察や金融機関は独自に行なっており、そこに市は介入していない。
防災は市が中心となって訓練している。

- 振り込め詐欺が多いということだが、高齢者への発信は。

- ほとんどの方が老人クラブに加入されているので、会報等により周知している。
消費生活センターからも、研修は積極的に行なっている。老人クラブに加入していない方へは、広報を通じて発信している。また、警察からのメール発信もある。

- 情報発信は大事。母にオレオレ詐欺の電話があり、その手口が少し手の込んだ

- ものだったので、具体的な例示があると注意しやすい。
- 情報の伝え方は施策の中に組み込んでいく必要があるかもと考えている。

- 市内の堤防の改修は終わったのか。
- 両開地区で一部残っている。そこが終わると完了となる。

柳川の地域資源や産物を誇れるしごとづくり

(18) 柳川に適した企業誘致と地場企業のビジネスチャンスの拡大支援

- 高卒後市外に出て柳川に帰ってきても、仕事がないのが現状。
- 仕事を探す手段もない。
- ハローワークがネット環境を変えて、全国で閲覧できるようにはなっている。
- 知っているが情報は少ない。
- 柳川から通えれば、仕事先は大牟田でも久留米でも福岡でもよい。市のHP等に、通勤時間や通勤費がわかる情報が欲しい。
- 都会で働いていても、疲れて田舎に戻りたい、住みたいという人は必ずいる。そういう人達のキャッチアップが必要。
- 新卒採用よりも中途採用に力を入れた方がいいのではないか。中途採用の窓口の拡大が必要。

(19) 魅力ある店舗開業、起業支援による商業の活性化

- 中島商店街は、組織を作って朝市の復権や商店街の活性化を図っている。地域おこし協力隊もその中に入って一緒に取り組んでいる。柳川商店街も地域おこし協力隊が「KATARO base 32 (カタローベース)」を拠点として活性化に取り組んでいる。
- 商店街の通行量は。
- 横ばい。底をついている状態。
- 商店街地域の人口は。
- 減少し、高齢化が進んでいる。
- 佐賀市は閉店した商店街地域に高層マンションを建設し、その結果小学校の児童数が増えたようだ。
- 併用住宅で、店は閉店しても奥にはまだ住んでいる状態なので、開発はできていない。

(20) 強いブランド力に支えられた観光業による稼ぐ力の向上

- 観光客の改善要望事項が10年前から変わっていないとあるが、こういった要望があがっているのか。
- 「堀が汚い。」「道路が狭い。」「案内が少ない。」など。力を入れているが、要

望は変わっていない。「お土産が少ない。」は、改善されて要望は減ってきている。

- 改善できないのか。
- 清掃活動は毎日やっている。山の清流をイメージして来ている人がいるので、どうしても改善要望にあがってしまう。
- 「案内が少ない。」は改善できるのではないか。観光に来て、まず車をどこに停めて、どこに相談すればよいかわからない。川下りのスタート地点もわからない。
- 観光客が、柳川に入ってすぐ相談できる案内所が必要。
- 沖端の観光案内所に来られると案内ができるが、川下りのゴール地点なので、またスタート地点まで移動してもらわないといけない。
- 川下りの舟も塗料が剥げて汚い舟がある。舟がきれいだとまだいいのだが。
- 目の肥えた観光客が来られると、厳しい意見が多い。
- いろんな観光客向けのルートはつくっているのか。
- 旧小路マップ等で紹介をしている。
- インバウンドの取り組みは必要。広域連携をして進めるべき。
- 観光客のリピーターは多いのか。少ないように思うが。
- リピーター率は結構高い。うなぎ等の食に対するリピーターが特に。
- うなぎのせいろ蒸しは高い。家族5人で食べに行くとかかなりの額になってしまう。

(21) ブランド確立による稼ぐ農漁業への転換

- 施設園芸が増えてきているのか。
- 全体的に就農者が減っている中で、イチゴとアスパラを新規就農する人は増えている。

- 豊かな海にするために、筑後川や矢部川流域の近隣市町との協力体制は。
- 市が矢部川上流域で森林植樹活動をしたり、上流域住民が漁港でゴミ拾い活動をしたりなど、交流はあっている。

(22) 産業の後継者づくり

- 農産物関係に企業が進出することはないのか。
- 耕作放棄地は少ないので、企業が進出するような農地は少ない。
企業とマッチングして販路を広げる手はあるが。
- 農業に企業が入って、雇用が増えればと思ったのだが。
- 個人経営ではなかなか難しいということで、集落営農組織ができた。今はその集落営農組織が法人化をしてきている。その法人で、人を雇って、米・麦・大豆だけではない、新たな農産物をつくっていくのも、将来的には可能だろうと思っている。

○TPP になったらどうなるのかという危惧がある。

(23) 大学・地元高校等との連携

○こういった取り組みは是非積極的に進めてもらいたい。

(24) 柳川の特長を活かした舞台の整備

○農業振興地域と都市計画区域とはどこか。

●市全体が都市計画区域になっている。その中に用途区域と農業振興地域を市で定めている。

●昔集落で農業を行っていた地域に宅地ができて、都市化が拡散してしまっている。このまま人口が減少していった時に、市の機能を持続するのが難しくなるので、集約、コンパクト化ができないかと探りを入れている段階。

○確かに、市の隅々にまで行政サービスを広げるのには無理がある。

○沿岸道路が通れば、道路沿いが発展しないだろうか。

●市民の利便性、流通等は良くなるが、大和城島線などを見てもわかるように、必ずしも発展するとは言えない。

○公共交通体系の見直しも、なかなか難しいだろう。長期的なスパンで見ていくことが大事。

計画実現にあたって

(25) 住民とともに進めるまちづくり

○公募委員はいろんな人が参加しているか。もしくは特定の人に偏りがあるか。

●公募委員は偏っていないと思う。どちらかといえば団体からの代表は特定の人に偏りがあるかもしれない。男女比の比率でいうと、男性が多く、まだ改善の必要がある。

(26) 持続可能な財政基盤の確立

○厳しい財政で、今回の総合計画にあげているこれだけの施策ができるのか。

●攻めるところは攻めて税収増加を図らないと、市の未来は無い。締めるところは締めて、攻めるところは攻める。

○無駄をなくす取り組みは。

●次の項目であるが、行財政改革で取り組んでいる。

(27) 組織機構改革

○PPP、PFI 等の用語は、用語集で説明するのか。

●用語集に入れる予定。わからない言葉があれば、用語集に入れていくので、先

に教えてほしい。

○市のサービスに対する市民の満足度は増加しているのか。

●接遇に関しては、人事秘書課で窓口アンケートを毎年行なっていて、良くなっていると思う。

●住みよかアンケートで、柳川市に住んでどうですかという設問があったが、悪くはなかった。ただし、都会から来た人には、「地域の縛りが強い。」や、「地域の出ごとの多い。」等の苦情があった。

○庁舎の建替えは計画されているのか。

●検討委員会を開いて、検討している。今現在3庁舎あるが、集約した総合庁舎を新築したほうがいいのか、1カ所を増築したほうがいいのか、財力的、地理的等を考慮して進めている。

(2) 次回開催日について

事務局より説明

現況課題の確認については、本日の会議で全項目協議が終わったので、9月の会議はなしとする。

次回会議は10月下旬とし、詳細な日程は9月中旬には連絡する。

(3) その他

会長あいさつ)

皆様お疲れ様でした。2つのグループに分かれたということで、見ていないところもあるのですが、市役所の方がやられる仕事内容は非常に多種多様で、よくもこれだけやってあるなというのを、皆さん気付かれたのではないかと思います。

その中でも、柳川市が暮らしやすい場所、働きやすい場所にしていくにはどうしたらいいのか。残された時間で私達が少し知恵を出し合いながら考えていきたいと思っています。

これからもよろしくお願いします。本日はどうもありがとうございました。

3 閉会